

産官学連携活動 (2020年度)

1. 地域に根ざした生涯学習等に関する産官学連携事業

1) 官学連携

■ 公開講座

上尾市教育委員会・さいたま市教育委員会の共催「公開講座」は、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

■ リカレント教育講座

埼玉県福祉部と本学の協定による高齢者を対象とする授業科目の開放は、新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況を鑑み実施なし。(参考：2019年度の受講者は両学期合わせて61名)

■ 学習支援活動

さいたま市教育委員会と本学の協定により、2010年度より「教員を目指す学生による学生活動支援」を開始。本学学生をさいたま市立小学校に派遣。新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況を鑑み実施なし。(参考：2019年度の派遣学生はアシスタントティーチャー3名)

■ 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

本学、日本薬科大学、埼玉県教育局、上尾教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会で組織された子ども大学 あげお・いな・おけがわ実行委員会が主催する子ども大学は小学校4～6年生まで違う学校・学年の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で大学教員など専門家が分かりやすく教える。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となった。

2. 地方自治体との連携事業

2013年4月、地域連携・教育センターを開設し、さいたま市、上尾市、春日部市、岩手県釜石市を中心に地域連携活動を積極的に展開している。

■ 「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」について

2014年7月18日、埼玉県と「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」を聖学院大学及び、ものづくり大学と締結した。これは特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化に関する取り組み・研究について、相互に連携を図り推進するものである。具体的な事業概要は以下の通りとなっている。

・事業概要 高齢化が進む古い団地の活力を向上させるために、団地の一部を学生と子育て世帯向けの部屋に改修し、若い世代が入居するモデル事業を実施する。入居する学生や子育て世帯には自治会活動に参加してもらうことで、現在の入居者と共に支え合う「共助」の関係を築いていく。

・取り組み状況 本学学生が、2015年1月よりシラコバト団地に入居開始。2014年度末は2名だったが、2015年度は8名、2016年度は13名、2017年度は10名、2018年度は8名、2019年度は10名、2020年度は4名の学生が自治会活動に参加をしている。

■ 上尾市のゆるキャラPR：アッピー応援隊(寺崎恵子ゼミ：教育文化論)

(1) 活動の目的と経緯

2014年より、NPO法人AGETTOの依頼を受けて、上尾市のゆるキャラ「アッピー」を上尾市内の保育所・幼稚園の子どもたちに親しんでもらうこと、学生が、保育所・幼稚園の子どもたちと交流し子どもたちに喜びを届けることを目的として活動を行っている。

(2) 活動内容と実績

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。

■ 埼玉県との連携した子どものあそび場づくり：パワフルキッズ(金谷京子ゼミ：発達心理)

(1) 活動の目的と経緯

埼玉県から依頼を受け、一般社団法人すくすく広場、シラコバト団地自治会と連携し、上尾市にある県営上尾シラコバト団地の活性化につながる子どもたちのあそび場の提供を行っている。ハロウィンやクリスマスなど季節にあわせたイベントを継続して実施しています。

(2) 活動内容と実績

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、外遊びを行ったほか、子どもたちに集会室にプレゼントを取りに来てもらいシールド越しに手渡し、もしくは、団地内の子どもたちには家のドアノブにプレゼントをかけて配布を行いました。

①ハロウィンイベント 日にち：2020年10月24日(土) こども：14名 学生：3名

②クリスマスイベント 日にち：2020年12月12日(土) こども：20名 学生：2名

■ 上尾市のハローコーナーニュース：ベトナム語版の発行に関わる翻訳活動

(1) 活動の目的と経緯

上尾市の外国人市民の人口は令和3年6月現在、4,000人を超え過去最多となった。上尾市は、多文化共生を推進しており、外国人市民向けサービスの充実に力を入れています。そのサービスの一つとして、外国人市民のためのニュースレター「ハローコーナーニュース」が発行されており、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語などに翻訳されています。

市民協働推進課のご担当者より、近年増加傾向にあるベトナム国籍市民向けに「ハローコーナーニュース ベトナム語版」を発行したいとのお話をいただき、本学のベトナム人留学生が協力することになりました。上尾市の外国人市民への情報提供のお手伝いを通して、より良い地域づくりに貢献することを目的としています。

(2) 活動内容と実績

今年度は、11月号から4月号まで、毎月一回発行される「ハローコーナーニュース ベトナム語版」を作成した。ベトナム語版の作成にあたっては、留学生センターで「ベトナム語翻訳講座」を開設し、グエン ヴァン アイン先生に翻訳のご指導、監修をしていただきました。留学生は、自分の担当した箇所を翻訳し、グエン先生のチェックを受けながら、修正を重ね、期日までに完成させた。発行されたハローコーナーニュースは、ハローコーナー(窓口で配布されるとともに、上尾市のホームページにも掲載されています。

実施期間：10月9日～3月31日*「ベトナム語翻訳講座は、毎週木曜日と金曜日に開講。

参加人数：学生8名、教職員1名 連携先：上尾市市民協働推進課

■ 未来をひらく～私と3.11のこれまでとこれから～

(1) 活動の目的と経緯

埼玉の地で改めて、東日本大震災で起きたことを知り、考えることで風化を防ぐ機会にしたい、また復興支援活動に取り組む学生たちのネットワークの場にしたいと考え、埼玉県防災学習センターとの共催で、復興支援活動を継続する関東圏の学生による実行委員会形式によるイベントを実施しました。

(2) 活動内容と実績

東日本大震災から10年を迎える2021年。改めて被災地との関りを振り返るとともに、これからについて考える機会として、2年前に実施した「未来をひらく」プロジェクトを実施した。本学主催の復興支援ボランティアスタディツアーにおいても訪問させていただいた宮城県石巻市立旧大川小学校の校歌「未来をひらく」からのメッセージと、講演してくださった佐藤敏郎先生の「この大川小学校を悲劇の場所ではなく、未来をひらく場所として語られる場所にしたい」とのメッセージを受け止め、被災地そして被災者から私たちは何を学び取り、そしてその学びをどう未来につなげていくのか、参加者一人一人が向き合い、語り合い、実践につなげる機会として以下通りボランティアサミットを実施しました。新型コロナウイルス感染症への対応から、イベントを全面オンライン化し実施しました。

日時：2021年2月27日(日)～28日(月)

会場：オンライン開催

実施内容：佐藤敏郎先生(小さな命の意味を考える会)・菊池のどかさん(いのちをつなぐ未来館職員)による講演会、佐藤敏郎先生・菊池のどかさん、副実行委員長2名による座談会、グループワーク、懇親会、防災講座

■ 上尾市との包括協定に基づく「大谷地区自主防災啓発事業」

(1) 活動の目的と経緯

上尾市大谷支所と連携し、大谷地区の自主防災会でリーダーを担っている地域の方々と学生がともに防災について学び、自主防災意識の向上を図るために実施しています。

(2) 活動内容と実績

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。

■ 協定に基づき釜石市からの依頼で実現した釜石市保育士インターンシップ

(1) 活動の目的と経緯

2014年1月29日に締結した、聖学院大学と釜石市の連携協定に基づき、釜石市より、「市の保育士が減少傾向にあり、保育専攻の学生に釜石市での就職を検討いただきたい。」という相談があり、総務企画部総合政策課と保健福祉部子ども課との連携し、2019年度に新たに釜石市内の保育園で保育専攻の学生が希望制でインターンシップを行うことができるツアーを実施しました。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。

3. 地域産業界との連携事業

■ 大学プロジェクト：産官学連携+SDGs 推進+ダイバシティ推進

(1) 活動の目的と経緯

上記の大学プロジェクトでは埼玉県下の SDGs への取り組みを始めている企業や自治体をはじめさまざまな団体との連携を模索し、ともに勉強会などを行いながら具体的なアクションを連携してゆくための緩やかなネットワーク形成を行っています。これらを積み上げ人間関係を形成してゆく中で、SDGs 達成のための具体的なアクションを協働で取り組むことができるような、ある程度恒久的なプラットフォーム形成へと繋げていきます。

2020 年度はコロナ禍の影響で学内での活動が主になりました。

(2) 活動内容と実績

①環境ワークショップ

環境問題への関心や意識を高め、小さくても自分の周りのできることから始めてみよう というコンセプトの下、「新聞紙ごみ箱づくりワークショップ」(2020 年 11 月 10 日、学生 16 名、教職員 7 名参加)と「みつろうラップづくりワークショップ」(2021 年 3 月 9 日、学生 6 名、教職員 4 名、一般 4 名参加)を開催しました。

②「SDGs de 地域創生」カードゲーム体験会

2021 年 2 月 22 日、学内の教職員 11 名を対象に、「SDGs de 地方創生」カードゲームの体験会を実施しました。また、同カードゲームの公認ファシリテーター資格を教職員 2 名が取得し、計 3 名の教職員が公認ファシリテーターとなりました。今後、教育や産官学連携において同カードゲームを有効活用していく予定です。

③SDGs & Seig Newsletter

2020 年度における上記の活動と成果を詳しく記録・紹介するとともに、今後の活動への参加呼びかけに活用するため、「SDGs & Seig Newsletter 2020-2021」を発行しました。

■ AEON 社との連携プログラム：オンライン TOEIC 対策集中講座：SEIG キャンプ

(1)活動の目的と経緯

全学科の在學生と入学予定者を対象に、TOEIC 対策オンライン集中講座を実施し、積極的な英語学習の機会を与えると共に、本学が英語教育に重点を置いていることを、学内外に発信することを目的としました。

(2) 概要

今年度新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け中止した英語スピーチコンテストに代わり、TOEIC 対策のオンライン講座を、在学生及び入学予定者計 60 名を対象に参加費無料で実施します。AEON 社に依頼し、2021 年 2 月 15 日(月)～2 月 18 日(木)に渡り、1 日 7 時間のプログラムに講師も派遣してもらいます。最終日には、国際ビジネスコミュニケーション社にオンラインの TOEIC-IP の実施を依頼します。

(3) 活動内容と実績

初日に学生のクラスはレベル別に 2 つに分けて実施し、参加者は 32 名でした。当初の計画では 60 名の参加を計画していましたが、コロナ禍の影響によって、受講条件が厳しくなりました。それでもなお、32 名の参加者を集めることができたのは大きな成果としています。毎日、学生アンケートを実施し、日々の成長を確認することによって、学習意欲を高めることに成功しました。最終的には大半の学生において TOEIC スコアが向上しました。

■ さいたま北商工協同組合との連携事業

さいたま北商工協同組合との連携が行われ、2012 年度からさいたま北商工協同組合の事業計画書に聖学院大学のインターンシップ事業の実施が組み込まれた。毎年継続的に学生の受け入れを実施しており、本学の就業力の学修の場の拡大、また地元企業にとっても本学の学生の採用とのマッチングが期待できる。

■ 新潟県と学生 U・I ターン就職促進に関する協定を締結について

2020 年 3 月 12 日、新潟県と本学は、雇用対策事業として、学生 U・I ターン就職促進に関する協定を締結した。本協定は、新潟県と本学が相互に連携・協力に努め、学生に対し新潟県内の企業情報等を提供するなど就職活動を支援することにより、新潟県出身者をはじめとする学生の U ターン就職及び I ターン就職の一層の促進を図ることを目的としている。

連携事項

- 1) 学生及び保護者に対する県内の企業情報、生活情報等の周知に関すること。
- 2) 学生の U・I ターン就職に係る情報交換及び実績把握に関すること。
- 3) 学内で行なう合同企業説明会等、企業情報提供イベントの開催に関すること。
- 4) 保護者向けの就職セミナーの開催に関すること。
- 5) 学生のインターンシップ受入の支援に関すること。
- 6) その他学生の U・I ターン就職促進に関すること。